

田原市 在宅医療連携拠点推進事業 成果報告会 (3月12日)

田原市 医療介護連携推進室
(高齢福祉課)

医療介護相談窓口

担当者：内藤喜久枝・杉浦宏紀
TEL：0531-23-4654 (内線2121)
メール：naito-kikue@city.tahara.aichi.jp
住所：〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30番地1



キャベゾウ

医療介護連携推進室の開設

本日の内容

- ①立ち上がった理由
- ②なぜ必要になったのか
- ③何をやれるのか・やったのか
- ④どう変わったか・これからの田原市

①連携室が立ち上がった理由

- 国が動いた

- 医療介護総合確保推進法
- 介護保険法の改正
- 医療・介護の連携拠点を市区町村に開設と位置付けられた。
- 認知症施策の充実。
- 生活支援の充実と高齢者の社会参加
- 地元の人考える地域づくり。

田原市は？

- ②なぜ必要になったのか
- 現状を知る。

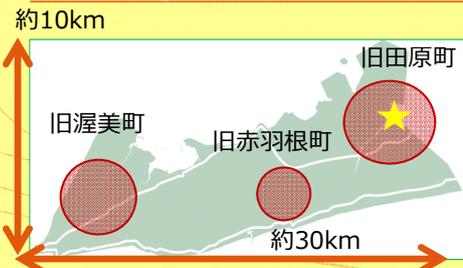
我が町 田原市の概要 (H26年3月末時点)

人 口	65,017人 (21,902世帯)
65歳以上 高齢者数	15,585人 (高齢化率：24.0%) 1年で約1%の増加
行政面積	188.81km ²
主な産業	自動車産業、花き等の農業 (農業産出額・花きの算出額は 日本一)

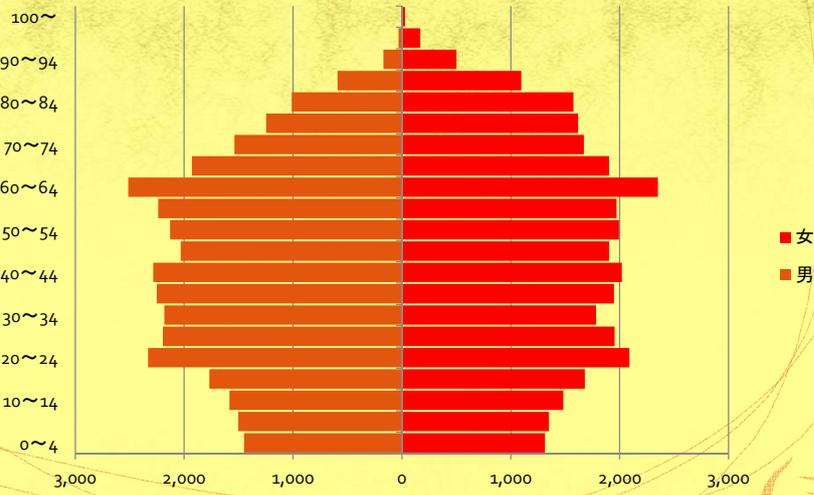


65歳以上世帯の状況

独居世帯	1,367世帯 1年で約100世帯増
高齢者のみ世帯	1,460世帯 1年間で約100世帯増
施設入所者	354人

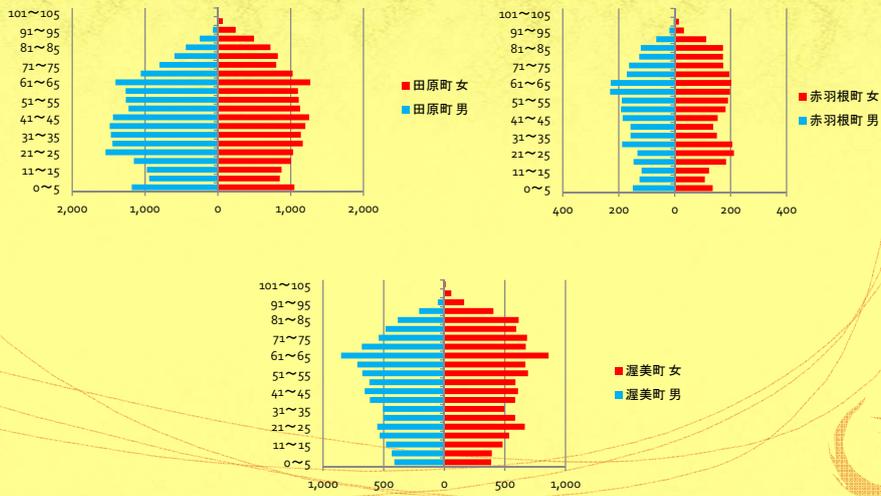


現在の田原市の人口ピラミッド

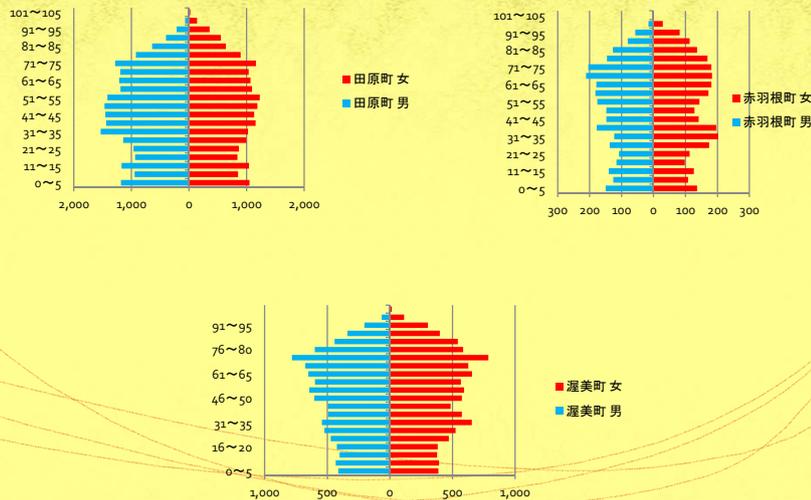


旧3町の現在人口ピラミッド

田原町高齢化21%・赤羽根町27%・渥美町29%



10年後旧3町ピラミッド もはやピラミッドではない



- 田原市の現在
- 現在3人～4人に1人高齢者(65歳以上)
- 現在8人に1人～2人は後期高齢者
- なぜ高齢化が、問題なのか？
- 田原市の75歳は
- 急に医療にかかり始める更に多疾患
- 介護申請の急増 自立度の低下
- (医療・介護費用の増大が問題 1ヶ月各約5億)
- **でも皆が死ぬまで元気なら良い!**

そこで <田原市の強み> 平成22年度国勢調査

日本一

- 高齢者労働力率：44.1%
- (65歳以上人口に対する65歳以上労働人口の割合)
- 完全失業者の低さ (完全失業率：2.6%)



愛知県内一

- 第一次産業就業者の割合
- 農業就業者の割合



高齢になっても
仕事や役割があ
る？



田原市のデータ

複合家族の割合	愛知県 1 位
国保加入率	愛知県 2 位
1人当たり医療費が少ない (田原市国保・介護)	若い人が多く加入
国保疾病	高血圧・心臓病
介護保険 認定者数	2,301人・県平均・低
平均介護度	2.5 県 1 位
意見書疾病	認知症 1 位

一方で田原市の医療・介護資源の現状

医療資源		介護資源	
渥美病院(288床)	1施設	介護老人福祉施設	2施設
(地域包括ケア病床・療養病床10月開設)		介護老人保健施設	2施設
内科診療所	29施設	居宅介護支援	10施設
(内科)	22施設	訪問介護	6施設
歯科診療所	28施設	通所介護	23施設
		通所介護(認知)	3施設
調剤薬局	19施設	訪問入浴	3施設
		グループホーム	4施設
訪問看護	1施設	短期入所生活介護	5施設
訪問リハ	1施設	短期入所療養介護	2施設

田原市の弱み・課題

- 病院 1施設のみで更に**医師不足**
- 医療機関 地域により偏りがある
- 内科医の高齢化 現在平均年齢**60歳後半**
- 今後の**後継者問題**
- 有床診療所 **無**
- 在宅医療医師 診療の合間に少数往診
- 近隣市町村 **豊橋市のみ**
- **医療資源が厳しい**

- ③連携室は何をやるのか
 - 何をやったのか

担当者(多職種) 会議で田原市の検討

- 医療・介護の連携 → アンケートの実施
- 顔の見える関係づくり → 多職種連携等会議
- 高齢医師の負担軽減 → 医療・介護情報の共有化
- 東三河ほいっぷネットワーク(ICT)の活用
- 在宅医療・疾病予防の啓発 → 出前講座
市民向け講演
- 市民に見えるか → マップやパンフの作成

まず 医師の負担軽減



- 医療・介護の連携が必要
- (多職種研修会の開催・顔の見える関係)
- 病院との連携・後方支援
- (緊急時後方支援・レスパイト入院)
- 医療介護連携室の役割の明確化
- (現状を住民への周知・啓発)
- (医療・介護連携と人材育成)
- (健康づくり・介護予防実施)

平成26年度の医療介護連携推進室の活動

1 多職種連携の課題の抽出と解決策の検討

- 医療介護連携推進室開設の挨拶回り
- 各事業者・3師会にアンケート実施
- 多職種研修会4回・講演会2回(認知症・緩和ケア)
- 担当者会議の開催12回(月1回)
- 介護保険事業者研修会12回(月1回)
- 視察3回(柏市・御調町・新城市)

2 情報共有ツールの活用

- 介護保険事業所説明会8回 加入32事業者
- 歯科医師会説明会 加入6 歯科医院 ○薬剤師会説明会 加入3施設

3 家族の負担軽減

- レスパイト事例(病院・診療所・歯科医師・ケアマネ・施設)
- 地域包括ケア病床・療養病床開設(渥美病院)10月～開設

4 在宅医療の普及啓発

- 民生委員・商工会・介護保険事業者・老人クラブ・学生・医師・
歯科医師・看護師・保健師等 出前講座20回
(地域包括ケア・認知症予防等含む) 実施



家族・医療・介護・行政の調整会



多職種のグループワーク研修会



歯科医師によるケアマネ勉強会



ほいっぷネットワークの操作研修



高松老人クラブ総会



民生委員への講話



中学校への福祉教育



介護予防（口腔）教室



介護予防リーダーの運動教室



介護保険事業者等の認知症
講演会



市民向け講演会「在宅緩和ケア」



- ④市民はどう変わったか
- これからの田原市は
 - 今後の取組み

- 田原市のここが少し変わった
 - 市の医療と介護の課題が分かった。
 - 渥美病院に地域包括ケア病床と療養病床
 - 開設（病診連携室の充実）
 - 多職種研修会で顔が見える関係になった
 - ICTによる医療介護の連携が取れた。
 - マップ等の活用が図られた。
 - 市民講演で市民に医療と介護の関心が出た

- そして市民に訴える！！
- 時代が変わった ➡ 医療も介護も変わる
- 人口構造が変われば ➡ 高齢者が増加
- 疾病構造も変わる（多疾病・老化）
- 完治する治療 ➡ 治し支える医療へ
- 病院中心 ➡ 地域完結型への治療の転換
- 病院で治す ➡ 地域全体で治し支える医療
- もうだめと家に帰されたら元気になった家や家族・地域の力は凄い！
- 市の現状を市民に啓発し、一緒に検討！

10年後の自分の姿・地域の姿

- 自分の目標・姿
 - 「身辺自立した90歳を目指す。」
 - 「積極的に健診・教室等地域に参加！」
- ↓
- 地域の姿
 - 「住み慣れた土地でいつまでも、健康で、QOLを高め、誰もが、住んで良かったまち・地域づくり！」

●本日はご静聴誠に
有難うございました。

田原市医療介護連携推進室でした。